第２学年通信

VOL.23
2017.12.7(木)

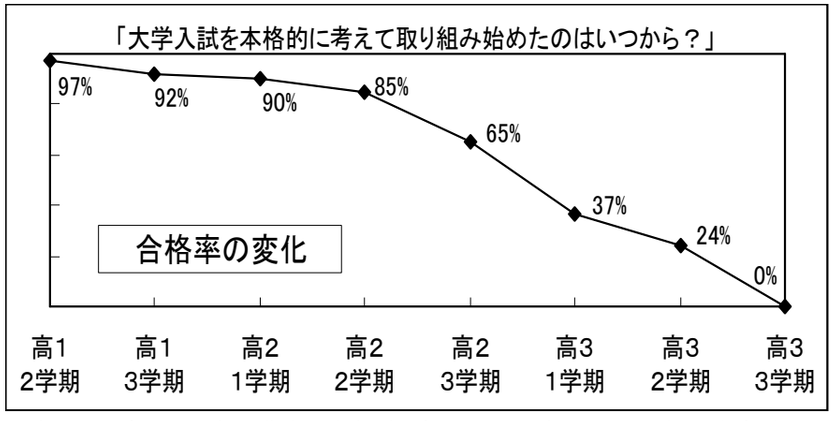
受験生になる時がきました

期末テストが終了し、冬休み（家庭学習期間）を迎えようとしています。冬休みが終わればいよいよ**「3年生0学期」スタート**です。一方、３年生は入試本番に向けて最後の追い込みに入っています。参考までに、３年生の今後の受験日程（概略）を示します。

１月上旬～：私立大学出願が本格化
１／１３（土）・１４（日）：センター試験
１／１５（月）：センター試験自己採点
　　国公立出願校検討開始
１月末～２月初旬：国公立大学出願
１月末～：私立大学入試が本格化
２月下旬～３月中旬：国公立大学２次試験

入試期間は実に２ヶ月以上にわたります。したがって、学力はもちろん、基礎体力と健康管理、そして最後まで諦めない粘り強さ＝**「ここに入学したい！」**という強い思いが必要です。それらは気合いですぐに発揮できるものではありません。日々の習慣によって醸成されていくものです。そのことを念頭に、**「凡事徹底」**を一層心がけて毎日を過ごしてください。

さて、高２の冬から春にかけては、大学受験を考えている全国の高２生すべてが受験勉強をするようになります。本校でも、３年生に混じって放課後図書館で学習する２年生の姿が多く見られるようになりました。まだ本気モードのスイッチが入っていない人は、**今が本気になるべき時**です。下のグラフを見てください。



平成２８年度１・２学年進路講演会（ベネッセコーポレーション）配布資料より

これは以前にも紹介したグラフですが、本格的に学習を開始した時期の違いにより、志望校の合格率が大きく変わることを示しています。これを見ると、**今から２年生３学期にかけての時期が大きな節目である**ことがよく分かります。すなわち、**これからの数ヶ月間漫然と過ごしてしまうと、志望校合格率は大きく下がる**ということです。しかし、受験対策だからと言って、今から応用問題をがつがつ解いていくことはおすすめできません。なぜなら、まだ応用問題を解くための手段となる基礎が十分固まっていないからです。**今の時期は、これまでに学習した範囲の基礎固めを徹底して行うことが大切です**。右側に、本校の各教科の先生方からのアドバイスを掲載します。よく読んで今後の学習に生かしてください。

【国語】
①頻出漢字の読み書き、評論用語の意味などの基礎知識を固めよう。
②評論文は一週間に３～４題読もう。
③小説は『新現代文単語』の小説編を固めよう。
④古文はまず文法と基本単語、さらに短い文を自力で現代語訳できるようにしよう。
⑤漢文は「レ点」「一、二点」など書き下しのルール、句法を正確に身につけよう。

【英語】
①毎日必ず英語に触れよう。
②英語⇔日本語が自在にできるようにしよう。
③中程度の長さの英文を「精読」しよう。
④リスニング対策も始めていこう。

【数学】
①公式は暗記するだけでなく、公式を導く過程も書けるようにしよう。
②教科書や問題集の「例題」を解けるようにしよう。
③途中計算でつまづくことがないよう訓練しよう。

【地歴】
①世界史・日本史は問題集を解くだけでなく、教科書を常に参照し、大まかな「流れ」（因果関係、背景）の把握に努めよう。
②日本史は「縦のつながり」、世界史はさらに「横のつながり」にも注目しよう。
③地理は地図帳で必ず地形・地名を確認する習慣をつけよう。また、成因を説明できるようにしよう。
④公民（現代社会・倫理政経）は主な時事問題の把握に努めよう。

【理科】
①化学の理論分野はまず内容理解に重点を。また、化学式・反応式に慣れるため、問題演習も始めよう。
②物理は基本法則を理解した上でくり返し問題演習を。
③生物・地学は既習分野の暗記を少しずつ始めよう。理系は１日２問、問題演習を始めるのが望ましい。

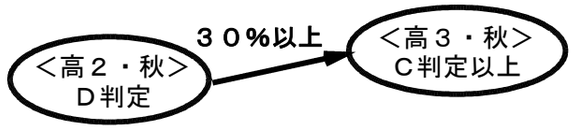
期末テストや進研模試の見直しを冬休み前にやっておきましょう。そして冬休みは、**各教科から出される課題**にしっかり取り組みましょう。まずは短期目標として、**冬休み明け直後の校内模試**と**１月進研記述模試・２月進研マーク**に照準を合わせ、学習内容を明確にして取り組むことが肝要です。

最後に、この時期の志望校判定に対する一つの考え方を紹介します。少し古い資料になりますが、４年前にベネッセコーポレーション発行『ホームルーム通信』で掲載されていたデータを以下に示します。

判定の人数変動（下記２回の模試で第１希望大学を変えなかった生徒を集計）

	２年１１月模試	３年９月模試	増減
A	３，２７０人	４，５８２人	＋１，３１２人
B	９，７６０人	１０，４６８人	＋　７０８人
C	２２，０７５人	１９，７６８人	－２，３０７人
D	２９，１４４人	２４，０６６人	－５，０７８人

Ｄ判定の増減は－５，０７８人となっています。この－５，０７８人はどこにいったのでしょうか？Ｅ判定に下がった人も当然いるでしょう。しかし、Ｃ判定以上に上がった人も結構いると考えられます。ベネッセの資料では次の図も示されていました。



高２秋から高３秋まで第１希望を貫いた人のうち、Ｄ判定から上昇した人が３０％以上いたそうです。**これから本気で努力すれば可能性は十分ある**と言えるでしょう。しかし、**裏を返せば、Ａ・Ｂ・Ｃから判定を下げてしまった人がそれだけいた**ということでもあります。受験本番まであと１年、悔いを残さぬよう毎日を過ごしましょう。